

新內科学大系

代謝異常Ⅲb

第三編 腺病



新内科学大系

47 B



代謝異常Ⅲb

吉利和久一
中尾喜
山形敏
辺謙郎
三辺喜
黒岩義五
織田謙
阪大教授
東大教授
九大教授
東北大名譽教授
前慶大教授
浜松医学校長
東大名譽教授
自治医大学長
東大名譽教授
東大名譽教授
東大名譽教授
東大名譽教授
東大名譽教授
東大名譽教授

一次 雄敏 五郎 謙和

〈監修〉

馆藏专用章



0012 7899

中山書店

卷 03 全
(便益全)

新内科学大系 (全 60 卷)
Handbook of Internal Medicine
(Shin-Naikagaku Taikei)

1977年4月25日 第1刷発行

検印省略

新内科学大系 (全 60 卷)
Handbook of Internal Medicine
(Shin-Naikagaku Taikei)

第47巻B《代謝異常 IIIb》◎

監修

吉 中山 三 黒 織 山 利 尾 形 辺 岩 田 村 和 久 一 謙 郎 次 一 喜 敏 雄

発行

中山 三郎 平

発行所

株式会社 中山書店

〔製作〕 株式会社 中山・新内科学大系刊行部
東京都文京区本郷3の14の10(泰生ビル)
TEL. 813-1101(代表) 郵便番号 113
〔販売〕 東京都文京区本郷3の6の12(太平ビル)
TEL. 815-3511(代表) 郵便番号 113
〔取引〕 東京都千代田区神保町2の24
TEL. 263-5511 振替東京 196565 郵便番号 101

印刷／三松堂印刷株式会社・凸版印刷株式会社 製本／松岳社青木製本所
用紙／三菱製紙株式会社 表紙／ダイニック株式会社

東大院內系

日圖

III 常異識分

國 爰媛大教授
府 土屋達雅
和 田 雅
鈴 木 秀
東大講師
群大教授
東女醫大教授
山形大教授

鎮目和
石川和
和

郎誠夫

郎春攻郎誠夫

〈編集〉

中一編大一

〈附註〉

中 山 書 古

北大教授 尾村
北大教授 白石
山形大教授 中村
東北大教授 滝島
東北大教授 村尾
東北大教授 小坂
東北大教授 豊倉
東北大教授 堀内
東北大教授 真下
東北大教授 田中
東北大教授 田中
東北大教授 田中
東北大教授 田中
東北大教授 田中
東北大教授 田中
北大教授 尾忠
北大教授 雄誠
北大教授 任隆
北大教授 德雄
北大教授 覚雄
北大教授 忠誠

九大教授 尾前
九大教授 阿部
阪大教授 阿部
阪大教授 高安
國立京都病院長 高安
滋賀医科大学長 坂脇
滋賀医科大学長 坂脇
京大名誉教授 坂脇
中部労災病院長 坂脇
中部労災病院長 坂脇
京大名誉教授 坂脇
中部労災病院長 坂脇
中部労災病院長 坂脇
北大教授 照雄
北大教授 裕雄
北大教授 正一
北大教授 行弘
北大教授 啓明
北大教授 淑彦
北大教授 康彦
北大教授 树彦

〈監修協力〉

和田 雄泰
和田 雄泰
名大名誉教授
国立名古屋病院長
日比野進
増田正典
木下康典
武内重五郎
木下康典
新大教授
東医歎大教授
京府医大教授
小坂岡大学長
高岡長大教授
臣晴善人
比古淳夫
比古淳夫
民康夫
人夫
人夫

<顧問>

外 健 興 當

勝木司馬之助	常吉田	宅三	青青山	中冲	坂定	田東	利川	重利	雄
<small>九大名譽教授 宮崎醫大學長</small>	<small>阪大名譽教授 國立京都病院名譽院長</small>	<small>京大名譽教授 國立大阪病院院長</small>	<small>名城病院長</small>	<small>関東勞災病院名譽院長</small>	<small>東大士院會員 東大名譽教授</small>	<small>學士院會員 北大名譽教授</small>			
雄	常	宅	進	孝	雄	雄			
儀	常	三	山	青	利	利			
助	吉	田	山	青	川	川			

〈名譽顧問〉

善	善	忠	忠	義	義	誠	誠	信	信
善	善	忠	忠	義	義	誠	誠	信	信
善	善	忠	忠	義	義	誠	誠	信	信
善	善	忠	忠	義	義	誠	誠	信	信
善	善	忠	忠	義	義	誠	誠	信	信
善	善	忠	忠	義	義	誠	誠	信	信
善	善	忠	忠	義	義	誠	誠	信	信
善	善	忠	忠	義	義	誠	誠	信	信
善	善	忠	忠	義	義	誠	誠	信	信

（敬謝）

第47卷 B

代謝異常 IIIb

桃山 勝也
 関田 聰子
 清水 盈行
 田村 邦雄
 川崎 美智子
 三原 滋夫
 高橋 伸也
 木暮 一郎
 木下 伸一
 田中 兼之
 青木 伸一
 田中 伸也
 須田 正巳
 田島 伸也
 佐藤 邦雄
 井上 五郎
 田中 邦雄
 岸 恭一
 岸 恭一
 岸 恭一

〈問瀬監修〉

著者

阪大内科	藤澤知雄	昭大教授	清水盈行
北大教授	白石忠雄	川崎医大教授 川崎病院部長	高原滋夫
大阪市立桃山 病院副院長	青木隆一	愛媛大教授	須田正巳
愛媛大助教授	斎藤昌之	阪大講師	山本章
阪大内科	石川勝憲	徳大教授	井上五郎
徳大栄養生理	岸恭一	千大教授	奥田邦雄

（執筆順）

目 次

I. アミロイドーシス	藤澤知雄
1. 病型分類	3
2. 病因	4
3. 実験的アミロイドーシス	6
4. アミロイドの生化学	7
a. アミロイドの構造	7
b. アミロイドの生化学	8
5. 病理	11
6. 発生頻度	14
a. 人種による差	14
b. 年齢、その他	14
7. 臨床症状と検査所見	15
8. 糖尿病と膵島アミロイド沈着	18
9. アミロイドーシスと加齢	18
10. 家族性アミロイドニューロパシー	19
11. 診断	20
12. 予後および治療	21
II. 重金属代謝異常	
A. 概論	清水盈行 27
1. 鉄	27
2. 銅	29
a. セルロプラスミン分子の銅の意義	30
b. セルロプラスミンの生体内での役割	30
3. コバルト	31
4. 亜鉛	32
a. 亜鉛欠乏症	33

2 目 次

b. 治療的投与量と中毒量	33
c. 亜鉛欠乏の生化学	33
d. 肝・脾疾患と亜鉛代謝	34
e. 亜鉛中毒、その他	34
5. マンガン	34
a. 血液中のマンガン	35
b. マンガンの代謝	35
c. マンガン欠乏症状	35
d. マンガン過剰症状	35
6. ニッケル	35
a. 生体内のニッケル	35
b. ニッケルの代謝	36
c. ニッケル中毒	36
7. モリブデン	36
B. 肝レンズ核変性症 (Wilson 病)	清水盈行 39
1. 定義	39
2. 歴史	39
3. 疫学的背景	39
4. 臨床症状	39
a. 神経症状	40
b. 肝硬変	40
c. 眼所見	40
d. 検査所見	40
e. 病理組織	41
f. 病因、病態生理	42
g. 鑑別診断	44
h. 予後	45
i. 治療	45
C. ヘモクロマトーシスおよびヘモシデローシス	白石忠雄 48
はじめに	48
1. 歴史的事項、発生頻度	49
2. 鉄蓄積性疾患の分類	50

3. 病態と病因	52
a. ガストロフェリン	52
b. 鉄吸収の増加	53
c. 肝硬変症と鉄吸収増加	53
d. xanthine oxidase (キサンチン酸化酵素)	53
e. 鉄と組織障害	54
f. 組織の鉄に対する親和性	54
g. 脾液中の鉄吸収抑制因子	54
h. 胆汁中の鉄吸収促進物質	55
i. 遺伝的素因	55
4. 病理所見	56
5. 臨床症状	56
a. 肝硬変症に関連した症状	57
b. 皮膚症状	57
c. 糖尿病症状	58
d. 循環器症状	58
e. 血液学的所見	58
f. 関節症	58
g. 下垂体との関連	59
h. 腎	59
i. 精神障害	59
j. その他	59
6. 診断および鑑別診断	59
a. 血清鉄・不飽和鉄結合能	59
b. 骨髄ならびに血液所見	59
c. 肝生検所見	59
d. 皮膚の生検	60
e. Fishback 皮内試験	60
f. 胃粘膜の所見	60
g. 尿中のヘモシデリン (Rous' test)	60
h. デスフェリオキサミン (Desferal) 試験	60
i. 肝, 脾, 心臓, その他の機能検査	60
7. 経過と予後	61

4 目 次

8. 治療と予防	61
a. 鴉血療法	61
b. デスフェリオキサミンB (Desferal) による除鉄療法	62
III. その他の酵素欠損にもとづく代謝異常疾患	
A. 無カタラーゼ血液症	高原激夫 73
概 要	73
1. 研究の動機	74
2. 血液の性状	75
3. 臨床的事項	77
a. 本症にみられる特異な口腔疾患（高原病）の病像	77
b. 口腔疾患の治療	77
c. 口腔疾患の発病機序	78
4. 遺伝的事項	78
5. カタラーゼ蛋白について	80
6. 本症における問題点	82
B. 低ホスファターゼ症	青木隆一 84
1. 概 念	84
2. 歴史的考察	84
3. 病因および病態	84
4. 遺伝形式	85
5. 臨床症状および臨床検査所見	85
6. 診断と鑑別診断	86
7. 経過、予後および治療	86
C. 高ホスファターゼ症	青木隆一 87
1. 痙攣と知能障害を伴う高ホスファターゼ症	87
2. hyperostosis corticalis deformans juvenilis (Swoboda)	87
D. 偽コリンエステラーゼ異常症	
(サクサメトニウム過敏症)	青木隆一 88
1. 概 念	88
2. 歴史的考察	88

3. 病因と病型分類	88
a. atypical 遺伝子型 (dibucaine 耐性酵素型)	89
b. silent 遺伝子型	89
4. 臨床症状(検査所見)および診断ならびに鑑別診断	90
5. 治療および発症予防	90
E. 家族性血漿LCAT欠損症	青木隆一 91
臨床症状と検査所見	91
F. 酵素 inhibitor 欠乏による酵素異常症	青木隆一 93
1. α_1 -antitrypsin deficiency, 家族性汎小葉性肺気腫, 家族性肝硬変症	93
a. α_1 -antitrypsin (α_1 -AT) の性状	93
b. α_1 -ATD と家族性汎小葉性肺気腫	96
c. α_1 -ATD にみられる肝病変	97
2. C1-inactivator deficiency, 遺伝性血管神経性浮腫 (HANE)	98
a. C1-esterase と C1-inactivator	98
b. 病因および病態	98
c. 臨床所見と診断基準ならびに治療	100
3. antiplasmin 欠乏症	100
G. 薬物中毒性異常	青木隆一 103
1. サクサメトニウム過敏症	103
2. プリマキン過敏症, favism, グルコース-6-リン酸 脱水素酵素異常と薬物性溶血発作	103
a. その歴史と疫学	103
b. 起因薬物と臨床症状	103
c. 溶血の発症機序	105
d. 診断, 治療ならびに予防	105
3. acetophenetidin-induced methemoglobinemia	106
4. 異常ヘモグロビン症における薬物中毒性異常	107
5. イソニコチニ酸ヒドラジドの slow-inactivator と ビタミン B ₆ 性神経障害	107
6. 先天性肝性ポルフィリン症における薬物による 神経系発作の誘発	107

7. 家族性自律神経失調症における薬剤異常反応	108
8. 抗凝固剤クマリンの家族性耐性出現	108
9. 薬剤による高体温と筋硬直の出現	108
10. そ の 他	109

IV. 栄養障害

A. 概 説	須田正巳 113
1. 栄養障害の要因——不变性と可変性	113
2. 内因性の諸相	113
3. 視床下部と体内代謝	114
4. 栄養素の消化管内レセプター	114
5. 中枢神経系による代謝調節	115
6. 摂食のリズムと予知反応	116
7. 貪食行動と肥満	118
8. 発育期と栄養障害	118
9. 原点への回帰	119
10. C. D. Williams 女史への讃歌	120
B. エネルギー代謝	須田正巳, 斎藤昌之 122
1. 熱量と自由エネルギー	122
2. 自由エネルギーの捕捉と ATP	123
3. 代謝の動態と呼吸商	126
4. エネルギー消費と熱產生	129
5. 基礎代謝と活動代謝	130
6. 摂食行動とエネルギーバランス	134
C. 栄養過多(肥満)	山本 章, 石川勝憲 137
1. 概 念	137
2. 肥満の原因	138
a. 遺伝関係	138
b. 環 境	139
c. 精神的因子	140
d. 活動性(運動)の問題	141
e. 食物摂取調節中枢の障害	141

f. 間脳・下垂体・性腺症候群.....	143
g. 食生活と肥満.....	143
h. エネルギー利用効率の問題.....	143
i. 内分泌異常に伴う secondary obesity	144
3. 肥満症の診断と肥満の判定	145
a. 肥満であるとの診断.....	146
b. 類型の分類.....	146
c. 原因の解明.....	147
d. 修飾因子の解明.....	147
e. 肥満度と体脂肪量の測定法.....	147
4. 臨床症状ならびに肥満者における代謝異常	155
a. 臨床症状と所見.....	155
b. 肥満における代謝異常.....	156
5. 肥満症の治療	162
a. 症候性肥満および調節性肥満の治療.....	162
b. 単純性肥満の治療.....	163
D. 低栄養、栄養失調	井上五郎、岸恭一 176
はじめに	176
1. るいそう	177
2. 飢 餓	179
a. 体重ならびに体組成の変化.....	180
b. 尿および血液の変化.....	183
c. エネルギー代謝および物質代謝.....	185
d. 生理機能および行動の変化.....	189
e. 体内エネルギー貯蔵と餓死.....	190
f. 飢餓に対する適応.....	191
3. 蛋白質欠乏症症候群.....	192
a. 蛋白質欠乏症の病態生理と適応変化.....	192
b. 幼児の蛋白質・カロリー欠乏症症候群.....	196
V. ビタミン代謝異常	奥田邦雄
1. 総 論	225
2. ビタミンA	226

a. 欠乏症.....	227
b. 過剰症.....	227
3. B群ビタミン	229
a. ビタミンB ₁ (thiamine)	229
b. ビタミンB ₂ (riboflavin).....	231
c. ニコチン酸およびニコチン酸アミド.....	232
d. ビタミンB ₆ (pyridoxine, pyridoxal, pyridoxamine)	233
e. パントテン酸.....	234
f. ピオチン.....	235
g. その他のB群ビタミンおよびビタミン様物質	235
4. ビタミンC (ascorbic acid)	243
欠乏症.....	245
5. ビタミンD	246
a. 欠乏症.....	247
b. 過剰症.....	247
c. 治療.....	248
6. ビタミンE (tocopherol)	248
7. ビタミンK	249
a. 欠乏症.....	249
b. 過剰症.....	250
索引.....	253
plate I	(18')
ヒトアミロイドーシス (図1-a~f) / ウサギの実験的アミロイド ーシス (図2-a~d)	
plate II	(82')
正常血と無カタラーゼ血 (図1) / 左下大臼歯の歯根部から頬部 粘膜への壞疽の進展 (図2) / 硬口蓋の穿孔 (図3) / 無カタラ ーゼ血による血液寒天培地に溶連菌の培養されたもの (図4)	

アミロイドーシス

I